

「内部監査の成熟度モデル」アンケート回答のご依頼

日本内部監査協会 CIAフォーラム No.4-A ガバナンス研究会監査役分科会は、日々内部監査業務に携わる実務家による研究会です。

当研究会は、今を遡る 5 年前、2009 年度に「内部監査の成熟度モデル」を策定しています。

その際の策定の狙いは次の通りです。

内部監査の組織や体制、監査手順等の所謂「たてつけ」に関しては、内部監査の品質評価等により様々な基準が提供されています。その一方で、それらの機能振り、貢献、組織からの期待、監査の実効性といった内部監査の「機能状況」については、どのような状態がベストプラクティスであるのか、必ずしも共通の土俵があるわけではないとの認識もあります。もとより、内部監査は組織の方針・業務等に応じて存在するものであり、「定まったあるべき姿」があるものではありません。しかるに、共通の土俵や目標(ベストプラクティス)といったものがあると、内部監査の実務を行う上で、一定の指針になるとの期待もあります。「内部監査の成熟度モデル」は、このような認識・期待を受け、実務家の観点から一定の整理を試み、その「機能状況」を定量的に測定しようとしたものです。

当研究会では、これまで、2009 年度、2011 年度と 2 回アンケートを実施し、各項目の平均点、ばらつき、推移等について分析、これを公表することで、アンケートに回答くださった皆さまに、今後の内部監査機能向上のための気づきを促す役割を果たして参りました。

今般、前回実施より一定の年数が経過していること、この 2・3 年の経済環境は前回実施時期に比べ変化していると思われることから、第 3 回目のアンケートを実施することとしました。今回のアンケート実施にあたりまして、基本的に前回の項目を踏襲しておりますが、研究会での討議の結果、一部修正を実施しています。

このアンケートに回答頂き、分析結果と見比べて頂くことにより、皆さまの会社の内部監査の「機能状況」を、全体のばらつきの中での位置、他社が「機能状況」をアップ、ダウンさせている項目の中での位置等から把握できます。比較を通じ、内部監査の機能向上のために、今後どの分野、項目に資源を投入していくかの示唆が得られるのではないかと考えております。

どうか趣旨をご理解頂き、本アンケートに回答賜りますようお願いいたします。

なお、本アンケートの結果につきましては、当協会ホームページ上でご報告する予定です。

何とぞよろしくお願い申し上げます。

【回答記入に際しての留意事項】

本アンケートは、三部構成になっております。

第一部は、回答頂く企業、内部監査部門等についての基本的な情報です。

第二部が、「内部監査の成熟度モデル」の核となる部分で、(1)取締役会・経営者、(2)被監査部門、(3)監査役、外部監査法人、(4)内部監査部門に分けてあります。(1)～(3)までは、内部監査がそれぞれの主体にどのように働きかけているかとの観点から、(4)については内部監査部門内でどのように取り組んでいるかとの観点からご回答ください。

回答にあたっては、是非「設問の狙い」をお読み下さい。

また、質問内容は、レベル0 からレベル5 のうち、0、1、3、5 のレベルのみをお示しておりますが、0～5 までの6段階からの選択をお願い致します。レベルのゲージ範囲としては、0-6 の6段階を想定しています。例えば、1、3、5 の中間程度のレベルにあると判断される場合には、2、4 の選択をお願い致します。

第三部に、自由回答欄を設けております。

今後の当研究会活動の参考にさせていただきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

このアンケート（質問書）は、CIA フォーラム東京 研究会 No. 4-Aが、その活動成果として検討を加え、取り纏めているものです。

なお、「CIA フォーラム」は、CIA 資格保持者の研鑽および相互交流を目的に活動する、社団法人日本内部監査協会の組織上の研究会のひとつです。各 CIA フォーラム研究会は、担当の座長が責任を持って自主的に運営し、研究機関、目標成果を設定し、研究成果を発信しています。

このアンケート内容は、研究会の「見解」であり協会の見解を代表するものではありません。

用語集

【規定】

規則を設けて定めること。または、その定め。

「法律で規定する」「規定に従う」「規定種目」「適用規定」「前条の規定による」

【規程】

事務手続きなどに関する規則。また、関連する規則をまとめたもの。

「出張旅費規程」「職務規程」「取り扱い規程」「文書処理規程」「施設利用規程」

【CSA】(Control Self Assessment)

「現場レベル」の従業員のチームと管理職レベルのマネージャーが、組織体の目的を達成する可能性に影響を与える全ての重要な要素を、継続して意識し、その結果適切な調整をすることを可能にするプロセス。

【関係】【連携】

システムとしてつながっている場合に使い、たとえばスポーツの連携プレーなど型通り・自動的に物事を進める場合に使われる。「連携」は、特に連絡を取り合って物事を進める場合に使用。たとえば、打ち合わせなどをしながら協力して仕事を進める場合は「連携」。

【ERM】(Enterprise Risk Management)

企業などの組織体がある目的達成のために行う意思決定や業務遂行などにおけるすべてのリスクに関して、組織全体の視点から統合的・包括的・戦略的に把握・評価・最適化し、価値最大化を図るリスクマネジメントのアプローチのこと。

今日、コーポレートガバナンス、経営管理(業績管理)、内部統制、コンプライアンス、CSR、セキュリティ対策などを統合的にマネジメントするための概念としても注目されつつある。

【モニタリング】

モニタリングとは、予め設定しておいた計画や目標、指示について、その進捗状況を随時チェックすることをいう。

【フィードバック】

フィードバックするとは、結果を報告するとの意味。評価の際に、上司から伝達される結果について使用されることが多いが、必ずしも評価時や上司に限られたものではなく、様々な場面やソースから発信されたパフォーマンスに関する情報の伝達、結果報告などにも使われる。

【パフォーマンス】

一般的に「成果」と訳されることが多い。株式などの場合は、どれくらいの成績を上げたかがパフォーマンス。

以上